



平成28年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年2月2日

上場取引所 東

上場会社名 ワタベウェディング株式会社
 コード番号 4696 URL <http://www.watabe-wedding.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 花房 伸晃
 問合せ先責任者 (役職名) グループ管理本部長 (氏名) 平木 親臣

TEL 075-778-4111

四半期報告書提出予定日 平成28年2月3日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第3四半期の連結業績(平成27年4月1日～平成27年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第3四半期	33,808	△0.8	409	—	570	272.8	100	—
27年3月期第3四半期	34,064	△6.2	△122	—	153	—	△486	—

(注)包括利益 28年3月期第3四半期 △94百万円 (—%) 27年3月期第3四半期 63百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第3四半期	10.16	—
27年3月期第3四半期	△49.13	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年3月期第3四半期	19,917	10,869	54.3
27年3月期	20,732	10,963	52.6

(参考)自己資本 28年3月期第3四半期 10,815百万円 27年3月期 10,910百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
28年3月期	—	0.00	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注)平成28年度3月期の期末配当予想額は未定としております。

3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	44,000	△0.5	200	—	260	—	60	—	6.06

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P.2「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料P.3「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

28年3月期3Q	9,909,400 株	27年3月期	9,909,400 株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

28年3月期3Q	326 株	27年3月期	326 株
----------	-------	--------	-------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

28年3月期3Q	9,909,074 株	27年3月期3Q	9,909,074 株
----------	-------------	----------	-------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続の対象外ですが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.2「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは当第3四半期連結累計期間において、「リゾート挙式」では平成27年5月に宇都宮店、6月に長野店、8月に京都四条サロンをオープンし、国内・海外リゾート挙式専門の相談サロンとしてリゾート挙式の啓蒙とマーケットの拡大を図りました。また、平成27年9月には沖縄の「アクアグレイス・チャペル」をリニューアルオープンし、新郎新婦に加えてゲストへのおもてなしを意識した空間を提供することで、より多くのお客様がリゾートウェディングにご参加頂けるよう努めてまいりました。さらに、平成27年11月に邸宅風バンケット3会場を併設したグアムの新チャペル「ルース・デ・アモール チャペル」をオープンいたしました。日本からの渡航時間が比較的短く、列席者が多いグアムマーケットの特徴を活かして、挙式後のパーティーを希望する顧客の獲得を強化いたしました。今後は、平成28年2月にハワイ・ワイキキ地区のヒルトン・ハワイアン・ビレッジ・ワイキキ・ビーチ・リゾート内に「ジ・アカラ チャペル」をオープン予定となっており、平成27年12月より受注を開始するなどハワイの中でも人気が高いワイキキエリアにチャペルをオープンし、今までとは異なる顧客層の獲得に努めてまいります。

「ホテル・国内挙式」では引き続き婚礼事業の強化に加え、婚礼以外の一般宴会事業や宿泊事業の強化に努めてまいりました。婚礼事業におきましては、目黒雅叙園で新しいコンセプトのバンケットをリニューアルオープンし、競合との差別化、商品の多角化による単価の向上に努めました。また、宿泊事業におきましては、目黒雅叙園、メルパルク共に高い水準で推移している稼働率の維持と、サービスや付加価値の向上に努め、客単価向上を図りました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における業績は、売上高33,808百万円（前年同四半期比0.8%減）、営業利益409百万円（前年同四半期は営業損失122百万円）、経常利益570百万円（前年同四半期比272.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益100百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失486百万円）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。なお、以下の数値は、セグメント間の取引消去後となっております。

① リゾート挙式

一組当たりの単価は向上したものの、挙式取扱組数が減少したことにより、売上高は13,644百万円（前年同四半期比2.5%減）、利益面につきましては、固定費削減等に努めるものの、円安進行の影響を受け、セグメント損失は96百万円（前年同四半期はセグメント利益92百万円）となりました。

② ホテル・国内挙式

宴会及び宿泊事業が好調に推移したことにより、売上高は20,163百万円（前年同四半期比0.5%増）、利益面につきましては、原価の低減や固定費削減等に努めた結果、セグメント利益は495百万円（前年同四半期はセグメント損失244百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当社グループの当第3四半期連結会計期間末の流動資産は、前連結会計年度末に比べ111百万円減少し、8,520百万円となりました。これは主に現金及び預金が増加した一方で、売掛金及び流動資産のその他が減少したことによるものであります。固定資産は、前連結会計年度末に比べ704百万円減少し、11,396百万円となりました。この結果、資産合計は前連結会計年度末に比べ815百万円減少し、19,917百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ227百万円減少し、6,990百万円となりました。これは主に前受金の減少によるものであります。固定負債は前連結会計年度末に比べ493百万円減少し、2,057百万円となりました。これは主に長期借入金の減少によるものであります。この結果、負債合計は前連結会計年度末に比べ720百万円減少し、9,048百万円となりました。

純資産残高は、前連結会計年度末に比べ94百万円減少し、10,869百万円となりました。これは繰延ヘッジ損益の減少159百万円及び親会社株主に帰属する四半期純利益100百万円等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間におきましては、業績は概ね計画通り推移していることから、平成27年5月12日発表の業績予想を変更しておりません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（企業結合に関する会計基準等の適用）

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。）、「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。）及び「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更しております。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

これによる損益に与える影響はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,502	5,212
売掛金	1,626	1,484
商品及び製品	256	225
仕掛品	23	15
原材料及び貯蔵品	471	504
その他	1,797	1,116
貸倒引当金	△46	△38
流動資産合計	8,631	8,520
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,236	3,974
土地	2,220	2,033
その他(純額)	1,383	1,247
有形固定資産合計	7,840	7,255
無形固定資産	640	542
投資その他の資産		
差入保証金	2,845	2,678
その他	806	950
貸倒引当金	△31	△30
投資その他の資産合計	3,619	3,598
固定資産合計	12,100	11,396
資産合計	20,732	19,917
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,532	1,649
短期借入金	625	834
前受金	2,363	1,822
賞与引当金	383	273
その他	2,314	2,410
流動負債合計	7,217	6,990
固定負債		
長期借入金	750	187
退職給付に係る負債	870	914
資産除去債務	579	589
その他	351	366
固定負債合計	2,551	2,057
負債合計	9,769	9,048

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,176	4,176
資本剰余金	4,038	4,038
利益剰余金	2,473	2,574
自己株式	△0	△0
株主資本合計	10,687	10,788
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	92	97
繰延ヘッジ損益	162	3
土地再評価差額金	△920	△920
為替換算調整勘定	800	774
退職給付に係る調整累計額	87	72
その他の包括利益累計額合計	223	27
非支配株主持分	52	53
純資産合計	10,963	10,869
負債純資産合計	20,732	19,917

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
売上高	34,064	33,808
売上原価	11,990	11,822
売上総利益	22,073	21,985
販売費及び一般管理費	22,196	21,576
営業利益又は営業損失(△)	△122	409
営業外収益		
為替差益	201	100
その他	120	86
営業外収益合計	321	187
営業外費用		
支払利息	8	5
その他	37	21
営業外費用合計	45	26
経常利益	153	570
特別利益		
固定資産売却益	—	34
特別利益合計	—	34
特別損失		
固定資産除売却損	24	15
施設店舗整理損	91	10
減損損失	233	—
特別損失合計	349	26
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△196	579
法人税等	281	475
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△477	103
非支配株主に帰属する四半期純利益	9	2
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△486	100

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△477	103
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	55	4
繰延ヘッジ損益	192	△159
為替換算調整勘定	273	△28
退職給付に係る調整額	13	△14
持分法適用会社に対する持分相当額	6	0
その他の包括利益合計	541	△197
四半期包括利益	63	△94
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	50	△95
非支配株主に係る四半期包括利益	13	1

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	リゾート挙式	ホテル・ 国内挙式			
売上高					
外部顧客への売上高	13,995	20,069	34,064	—	34,064
セグメント間の内部売上高 又は振替高	4,681	73	4,754	△4,754	—
計	18,676	20,142	38,819	△4,754	34,064
セグメント利益又は損失(△)	92	△244	△151	29	△122

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額29百万円は、主にセグメント間取引消去と未実現利益消去によるものであります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「リゾート挙式」セグメントにおいて減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は233百万円であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	リゾート挙式	ホテル・ 国内挙式			
売上高					
外部顧客への売上高	13,644	20,163	33,808	—	33,808
セグメント間の内部売上高 又は振替高	5,198	71	5,269	△5,269	—
計	18,843	20,234	39,078	△5,269	33,808
セグメント利益又は損失(△)	△96	495	399	10	409

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額10百万円は、主にセグメント間取引消去と未実現利益消去によるものであります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。